

## 7. 学位の授与状況と研究成果

医科学専攻において過去5年間に博士（医学）の学位を授与した数は、次表のとおりである。

区分	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
課程博士	28	38	31	38	35
論文博士	26	34	72	12	13

## 8. 学生生活支援

### (1) 奨学金の申請・採択状況

○ 日本育英会奨学生出願・採用状況

年 度	第1種		第2種	
	出願者数	採用者数	出願者数	採用者数
平成15年度	2	2	0	0
平成16年度	2	2	0	0
平成17年度	2	2	0	0

### (2) 授業料免除実施状況

年 度	在籍者数	前学期			後学期		
		申請	免除		申請	免除	
			全額	半額		全額	半額
平成15年度	193	22	20	0	21	19	0
平成16年度	183	20	0	20	19	0	17
平成17年度	173	21	0	20	20	4	14

## 9. 自己評価・課題と展望

これまで医科学専攻は独創的な研究成果を上げ、医科学・医療の進歩・発展に寄与してきたが、今後もその実績を活かして新たな時代の医科学・医療を牽引すべく先端的研究を完遂し、その成果を世界に向けて発信していく必要がある。

### ① 21世紀の科学の進展，社会環境変化への対応

IT化が高度に進む21世紀の大学院には、先端的生命科学研究の推進とその成果の医療への応用並びに世界をリードする医科学研究者の育成が何よりもまず重要である。それに加えて、高邁な倫理観を具えた高度専門職業人の育成や、健康の保持・促進及び不測の大規模な救急・災害への対処をも視野に入れた医療・生命科学情報の統合・管理システムの構築が求められている。

生命科学の急速な進展，少子超高齢化社会の到来や社会・労働環境の変化による疾病構造の変化，さらには、これまでの病院中心の医療から在宅医療に見られるように患者を家族や社会との結びつきの中で支援する方向へと医療全体が健康保持・増進にパラダイムの転換が進む中で、「いつでも、どこでも、だれでもが容易に適切な医療を受けたい」という時代のニーズに応えるべく生命科学の

研究をさらに推進し、その成果に基づく先端医療を実現するのみならず、医療・健康に関する適切な情報を統合・管理・提供していかなければならない。

以上のような状況を踏まえ、今後、本専攻が達成すべき使命として、次の4項目を挙げることができる。

- 1) 現代社会において著しく増加し、一方で個々の患者の QOL を著しく傷害し、他方で大きな社会問題になっている **common diseases** である生活習慣病，アレルギー，そして腫瘍疾患のゲノムをこえた 21 世紀型ポストゲノムに基づく独創的かつ画期的病因解明と診断法開発と分子・遺伝子創薬を中心とする治療戦略の構築
  - 2) 広い視野を持ち国際的に活躍できる医科学研究者の育成
  - 3) 時代のニーズに機動的に対応し研究成果を社会に還元する教育・研究・医療拠点の形成
  - 4) 高度な技能と高邁な倫理観を併せ持つ高度専門職業人の育成
- ② 重点化課題に対応した教育研究体制の再構築

これら使命を達成するには、先端的生命科学の推進とその応用のための研究体制及び大学院教育を充実させ、時代のニーズを先導して社会に貢献することが必要である。

現在、学部では医学・医療の基本的な知識・技術を自律的に学習する論理的思考法・課題発見能力を培い、卒業臨床教育においては診療能力の向上・課題探求のモチベーションと問題発見能力を高める教育に重点を置き、より高度な医学・医療の教育は大学院に委ねているが、医科学専攻は学部教育に対応することを重視した構成を採っており、社会の要請に弾力的に対応し、国際的に活躍する研究者・高度の専門職業人の育成には不十分であると言わざるを得ない。これらに適切に応えるためには、重点化研究課題の先鋭的研究に取り組む時限プロジェクト型研究体制の構築とそれに対する研究者・大学院生の集積を行うために現行の講座制を廃し、教育研究の軸を大学院に移した「研究科の部局化（講座化）」を図る必要があるとし、平成 16 年度から講座化に踏み切った。

③ 部局化による効果

従来、本医学研究科を始めとする我が国の医学研究科では、社会的要請に適切に応える仕組みと優れた教育・研究を実践する人材を育成するための工夫が不十分であり、医学大学院の通弊として、社会的要請に必ずしもそぐわない自己完結型研究志向が強く、研究成果の社会還元が不十分であるという批判を呼ぶ原因となっている。研究科の部局化によって、

- 1) 社会的要請の強い医学的課題の克服
  - 2) 統合的・先進的教育システムの確立
  - 3) 国際的な医科学研究者の育成
  - 4) 21 世紀の医療を担う高度専門職業人の育成
  - 5) 優れた研究や教育が継続される体制の確立
- 等についての成果を生むよう努力している。